

# 施政方針

6月4日、太宰府市議会第2回定例会において、  
楠田大蔵市長による平成30年度の施政方針演説が行  
われました。「施政方針」とは、これからの市政運営  
に向けての基本的な考え方と主な施策を示すもので  
す。今回の特集では、施政方針の概要を紹介します。  
全文は市ホームページに掲載しています。

## はじめに

1月28日、太宰府市第6代市長に  
就任させていただいてから4カ月余り  
が経過いたしました。固より浅学非才  
であります。議員各位の寛大なるご  
理解、職員諸氏の献身的な支え、市  
民の皆さまの温かいご支援があればこ  
そ、ここまですは太過なく職責を果  
たすことが出来たのだと、感謝を申し  
上げます。

この間を改めて振り返りますと、三  
役不在が長く続いてきたため投票日  
翌日から早速初登庁し、一刻を惜しん  
で業務の説明を受け内部協議などを重  
ねることで積み残されていた諸懸案の  
解消に努め、ごく限られた期間ながら  
第1回定例会に向けての予算案や議案  
の最終決定も行うなど、私の持ちうる  
全ての力を注ぎ込んでまいりました。  
並行して職場廻り、現地視察などを進  
んで行うことで職員諸氏との信頼醸成  
や現場の把握に努め、各種行事にも自  
ら積極的に参加することで市民の皆さ  
まとの触れ合いを大切に、私なりに  
風通しの良い市政を心がけてまいりま  
した。今後もうこうした姿勢を貫いてま  
いります。

さて、私はかねてより太宰府を、日  
本を代表する都にするための3つの工

程と7つのプランというビジョンを掲  
げ、市民の皆さまにご期待を頂き負託  
を受けることとなりました。このビジョ  
ンのさらなる具体化や拡充、今後の工  
程の作成などについて、従来の施策と  
の整合性も図りながら、職員諸氏とこ  
の間何度となく議論を重ねてまいりま  
した。その肝はやはり、所信表明でも  
申し上げたように、誇りうる歴史を持  
ち全国に名を馳せる太宰府の本来持つ  
底力をいかにして引き出すか、であり  
ます。広域的視野と中長期的視点も常  
に持ちながら、前例にとられない成  
長戦略や生活支援戦略などを通じ、市  
内外での好循環をもたらすことで、太  
宰府をより住みやすく元気な都にしな  
ければなりません。

そのためにも今こそ、孔子の教え「論  
語」にございます「民、信なくば立たず」  
の精神が肝要であります。本市にお  
いても、また我が国にとつても、今ほ  
どこの精神が必要とされる時はないと  
確信しております。あくまで市民の皆  
さまの信頼があつてこそその政治であり  
ます。そうした思いから私は3つの工  
程を掲げました。そしてこの4カ月間  
風通しの良い市政を心がけ、かつての  
体育館建設単価の全面公開を決定し、  
予算の事業実施においても丁寧な過程  
を踏んでおります。これまで政治の道  
で学んできた自らの全てを今こそ太宰

府市政に傾け、市民の皆さま、議員各  
位、職員と心を一つに市政改革を断行  
してまいります。

## 第1のプラン 市民参画の行政、街づくりで 地域創生

市民の声が届く、市民に声が伝わる  
市政を実現することで、太宰府の市民  
力が引き出され、活力ある地域が創生  
されます。

### ◆市長と語る会の開催

地域に向向いての意見交換や有識者  
などに意見を伺うなど、広く市民の  
皆さまや専門家の皆さまのご意見を  
いただく風通しの良い市政を創り上げま  
す。

### ◆市三役リーダーブログで情報発信

三役会議の実施、ブログなどによる  
情報発信や、広報だざいふにおけるリ  
レー形式のコーナー設置など、市民の  
皆さまへ声が届く市政を実現します。

### ◆太宰府街づくりビジョン会議の開催

7つのプランに掲げている内容や具  
体化していきたい案件について、民間  
の視点などから広く協議いただき、今  
後の市政運営に積極的に生かします。

こうした施策で、市民力が存分に生  
かされる都を目指します。

## 第2のプラン 学問の神様にふさわしい教育、 子育て

学問の神様・菅原道真公にゆかりの  
ある本市が、そのイメージにふさわし  
く次代を担う子どもたちに夢と希望を  
与える先進的な教育、子育てを更に実  
践することで、特に若年層の劇的な自  
然増、社会増を実現することも可能と  
なります。

### ◆子ども・学生未来会議の開催

次代を担う子どもたちの街づくりへ  
の参画意識をいち早く高めることを目  
的として、市の将来について自由に語  
り合う場を提供します。

### ◆基本教育の充実と先進教育への挑戦

教職員研修の充実や学校におけるICT環境の段階的整備および学校施設の大規模改造に計画的に取り組み、学習環境の整備に努めます。また、学  
力向上の取り組みを推進し、児童生徒  
一人一人の学力保障に努めます。併せ  
て、タイムカードによる勤務時間の把  
握、「市内一斉ノー部活動デー」および  
学校閉庁日の設定など教職員の働き方  
改革にも積極的に取り組みます。その  
ほかプログラミングやものづくりなど  
さまざまな学びの場を提供するスチー  
ム先進教育キャンプの実施に向けた検  
討、第一線で活躍する各界講師を招い

ての講演会など、子どもたちが将来世  
界に羽ばたくきっかけになるような情  
操教育の実践に努めます。

### ◆学童保育の充実と児童活動の応援

利用児童の動向を注視しながら教室  
の不足などが予期される場合におい  
ては、迅速に当該小学校とも協議を進  
め、利用者の受け入れなどを検討しま  
す。

### ◆キャリア教育の充実

子どもたちの生きる力を醸成するた  
め、次世代の主役である中学生の育成  
に関わるネットワークを商工会などと  
連携・協力して構築し、職業観の育成  
に関わるキャリア教育、職場体験など  
を支援します。

### ◆大学・短大との連携

太宰府キャンパスネットワーク設立  
20周年記念事業を開催する予定です。  
また、大学などの空き教室の開放に  
向けて関係機関と協議していくと同時  
に、市内の大学の専門性を生かした事  
業を展開しながら、地域社会の発展と  
人材育成のさらなる強化を図ります。

### ◆中学校給食

既に、ランチサービスに係る費用を  
就学援助の対象とした「新しい就学援  
助制度」を開始しました。今後はラン  
チサービスの充実を図ることで喫食率  
の向上を図りつつ、市内小中学校の子  
どもたちの実態や地域の歴史・文化を

踏まえた太宰府らしい食育の推進を図  
ります。その上で（仮称）中学校給食  
調査・研究委員会を速やかに立ち上げ、  
ゼロベースであらゆる角度から実施方  
式や財源の検討を行い、私の任期中  
に一定の方向性を打ち出し、より良い  
中学校給食の実現に踏み出します。



ランチサービスのメニュー例

### ◆出産・子育てのサポート

「子育て世代包括支援センター」につ  
いて、組織体制と施設の見直しなどの  
調査研究を行います。また、認可保育  
所については施設の増設策などに合わ  
せて定員の増加を図ります。併せて、  
定員19人以下の小規模保育施設を1  
園公募し、特に待機の多い3歳未満  
児の待機児童の解消を図ります。

こうした施策で、次代を担う子ども  
たちが主役の都を目指します。

## 第3のプラン 徹底した行革と超成長戦略で 財政再建

本市の未来を見据えれば、財政基盤  
の強化と持続可能性を追求することが  
不可欠です。徹底した行政改革による  
歳出削減を行い、太宰府の底力を生  
かした成長戦略による自主財源の増加  
を同時に成し遂げれば、本市の活力は  
格段に増します。

### ◆職員の人材育成

職員採用試験に向けた事前説明会の  
実施など人材集めのための新たな試み  
や、人材育成基本方針の改訂にも取り  
組みます。また、国・県や他自治体を  
始め民間企業も含めた人事交流に向け  
調査研究および条件整備を行います。

### ◆市政運営経費の見直し

財政の硬直化解消に向け、身の丈  
にあった執行管理を行います。まず施  
設使用料の見直しの検討やふるさと納  
税の拡充に力を注ぎ収入増を目指しま  
す。また、歳出削減策として補助金規  
則を制定し、補助金・負担金の見直し  
に着手します。併せて、公共施設など  
の適切な維持更新を図るため、本年度  
中をめどに公共施設等再編計画の策定  
を行います。そのほか来年度、新入札  
制度導入を目指します。

### ◆中長期滞在型次世代観光産業など 地場産業の創出

太宰府の魅力をさまざまな手段でPRするとともに、地場の観光産業の創出を促進することで、中長期滞在型観光の実現を図ります。また、古民家の商業用途への活用の検討や早朝や夜間を楽しむためのメニューを充実させることで、観光消費活動を喚起し、税収の向上に繋がる観光産業化を図ります。

### ◆地場みやげ産業の振興

多様な主体による協議の場である（仮称）太宰府市産業推進協議会の立ち上げに向けて調整を図り、太宰府グルメ、新たな地場みやげなどの開発を進め、本市の新たな収入源の確保に努めます。



市の花「うめ」の実を使用した  
福岡農業高校による商品

### ◆大宰府政庁復元プロジェクト検討委員会 の発足

（仮称）大宰府政庁復元プロジェクト

やシェアサイクルの活用など最善の方策を検討します。そのほか、既成のイベント時の交通誘導などの課題・問題点の検証を行い、警察・道路管理者らとの協議を実施します。

こうした施策で市民が主役の快適な都を目指します。

## 第6のプラン 民間の知恵を生かした高齢者 福祉

本市の高齢者数も人口の4分の1を超え、そうした皆さんの活躍の場をさらに提供することが必要です。しかし財政的限界もあり、公的支援に過度に依存しない民間主導の方式を活用する必要があります。

### ◆自立支援システムの構築

地域包括ケアシステムの構築に向け、生活支援コーディネーターを配置します。また、地域の多様な主体で構成する協議体を設置し、高齢者ニーズの把握やサービス開発などの検討を行います。本年度は、市域全体を対象エリアとする協議体の設置と併せ、モデル地域として中学校区を対象とする協議体を一カ所設置する予定です。

### ◆高齢者の活動の場の支援

地域住民が主体となって運営される

検討委員会を立ち上げさまざまな復元方法を検討するなど、市全体の一体的な史跡整備・再整備を検討します。本年度は政庁跡VRコンテンツ利用促進事業を実施し、文化遺産をより身近に感じてもらえるよう展開します。併せて、大宰府跡推定客館地区の史跡保存のため、遺構表示について準備を進めます。

### ◆先端的集約産業の創生

太宰府で育った優秀な人材が郷土で活躍、創業できるような環境づくりを進めます。まずは商工会と連携して今後の創業支援事業などについて検討し、空き家などの活用も視野に入れ、IT関連事業者をはじめ、あらゆる分野の事業者の誘致にも努めます。

こうした施策で、活力ある持続可能な都を目指します。

## 第4のプラン 積極的広域連携による大太宰府構想

圧倒的知名度を持つ本市は、その強みを生かしながら広い視野で近隣自治体との連携を密にし、その中核として自ら発展するとともに周囲にも好影響を与える役目を果たさなければなりません。

介護予防・生活支援などの活動に対し、一定の財政支援を行います。また、長寿クラブ連合会については、会員数の増加ならびにさらなる組織の活性化を図ります。そのほか、老人憩いの場については、高齢者の身近な施設として整備・拡充を図ります。

### ◆地域包括支援センターの相談体制の充実

保健師などの専門職が地域に出向き、出張相談を行います。また、介護保険や認知症などに関する相談ブースを設けるなど、アウトリーチ型の相談対応を進めます。併せて、地域包括支援センターの機能強化を図るべく、来年度をめどに地域包括支援センターの支所を一カ所増設し、地域の西側を担当圏域とします。既存の地域包括支援センターには、本所としての統括機能を持たせ、支所との役割分担および連携の強化を通じて効果的かつ効率的な運営体制を構築します。

こうした施策で高齢者がうるおう都を目指します。

## 第7のプラン 防衛省自衛隊と連携した市民 の安全・安心

かつて防衛大臣政務官を務め、九州

### ◆交通大動脈計画の立案

さらなる人の往来と交通渋滞解消が両立されるよう可能性を追求するために調査研究を行い、中長期的な交通大動脈計画策定に向け準備を始めます。その前段として、周辺自治体とも連携した広域的街づくりの議論を進めます。本年度は、総合交通計画及び地域公共交通網形成計画の2つの計画を、整合を図りながら策定します。

### ◆周辺自治体と連携した防災計画および協力的体制づくり

近隣自治体と協力できる事について調査、研究を行い、連携していきます。また、災害時対応で人的な資源が特に必要な支援物資の保管、配布、避難時の移送などを補完するため、民間会社などとの協力的体制づくり、協定締結を行います。さらに防災意識の向上を図る方策を得るため、防災関係機関および協力団体、自治会などと協議の機会を設けます。

### ◆バス路線の利便性・収益性向上

コミュニティバス「まほろば号」について適正なダイヤ改正に取り組みます。今後は、運行データの分析を行ったうえで持続可能性と効率性を念頭に置きながら検討します。市域を超えた運行については西鉄などと協議を行い、積極的に可能性を追求してまいります。

北部豪雨災害の対応も経験したことから、防災をはじめ市民の安全・安心の確保にはひととき強みを生かせることと自認しております。



災害発生予測危険箇所調査の様子

### ◆消防庁、警察庁、防衛省関係機関との協定

地震、豪雨などの被害と災害対応を予測・分析するための準備調査を行い、併せて自衛隊や警察などからの支援内容を調査します。来年度は、地震、豪雨の災害被害と災害対応についてシミュレーションを行い、実際の災害時にスムーズな対応が出来るよう万全を期します。また、安全・安心のまちづくり推進大会の内容を拡大充実させ、あらためて防災意識の向上を促します。併せて、災害時の被災者の被害状況や支援状況、配慮事項などを一元的に集

### ◆観光連携による回遊性向上

本市を中核とした広範囲の回遊性を高めるための観光宣伝や観光事業を行い、本市へのさらなる誘客と、宿泊や飲食、買い物など全体としての消費単価の向上を図ります。その実現に向け観光推進基本計画の完成を図り、観光政策のグランドデザインを提示します。

こうした施策で、世界一元気な都を目指します。

## 第5のプラン 環境重視の逆転の発想で渋滞 解消

本市において渋滞問題は喫緊の課題の一つですが道路整備などハード面での対応には多大なお金や時間がかかります。そこで発想を転換し、環境に負荷をかけず、比較的短期間で渋滞解消を実現する方法を検討してまいります。

### ◆渋滞解消

渋滞実態調査を実施し対策案の構築を図ります。その柱として、ロードプライシングも視野に入れた交通誘導施策やボトルネック化している交差点の改良など、国・県・警察等関係機関との調整も図ります。またイベント時の渋滞対策としてパークアンドライド

約・管理し、共有化を図れるよう被災者支援システムを構築し、よりスムーズな被災者対応を可能にします。

### ◆ボランティア団体との連携

特に地震災害を経験したボランティア団体のノウハウを参考にするとともに、平時からボランティア団体との協議の場を設定します。

こうした施策で市民の安全・安心No.1の都を目指します。

## おわりに

結びにあらためて申し上げます。本市には誇りうる悠久の歴史や全国に轟く知名度、多くの観光資源に加え、郷土を愛し情熱を持つ議員各位、職員、市民の皆さん、そして無限の可能性を秘めた子どもたちという人材も豊富です。ここ太宰府が持つ本来の底力を最大限に引き出すことが出来れば、名実ともに日本を代表する、世界に冠たる都に甦ることも夢ではありません。国、県、近隣自治体との連携を心掛ける広域的視野と、10年、20年、30年先も見据えた長期的視点を持って、私自身全身全霊をかけて政治家としての使命を果たし、その夢の実現に邁進いたします。